

# 1. 学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

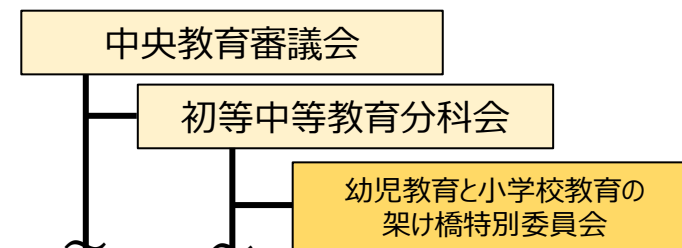
文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課



- 幼児教育の質的向上及び小学校との円滑な接続について専門的な調査審議を行うため、初等中等教育分科会の下に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置（令和3年7月8日初等中等教育分科会決定）

- 具体的には、以下の事項について検討

1. 生活・学習基盤を全ての5歳児に保障するための方策
2. 各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備
3. 保護者や地域の教育力を引き出すための方策、保育人材の資質能力の向上といった幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を図る上で必要な事項



【委員一覧】※敬称略・五十音順（◎：委員長、○：委員長代理）

- 秋田 喜代美 学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授
- ・ 荒瀬 克己 独立行政法人教職員支援機構理事長
- ・ 石戸 奈々子 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授、CANVAS 代表
- ・ 榎本 和生 東京大学大学院理学系研究科教授
- ・ 大竹 文雄 大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授
- ・ 岡林 律子 高知県教育委員会事務局幼保支援課専門企画員
- ・ オチャンテ村井ロサメルセデス 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授
- ・ 神長 美津子 大阪総合保育大学児童保育学部特任教授
- ・ 久保山 茂樹 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員(兼)センター長
- ・ 齋藤 孝 明治大学文学部教授
- ・ 佐川 秀紀 愛媛県伊予郡砥部町長（※令和4年7月～）
- ・ 鈴木 みゆき 國學院大學人間開発学部教授
- ・ 曾木 書代 社会福祉法人龍美 陽だまりの丘保育園長
- ・ 田村 学 國學院大學人間開発学部教授
- ・ 中井澤 卓哉 筑波大学教育学類4年、(一社)ひとと代表理事
- ・ 中山 昌樹 学校法人中山学園理事長
- ・ 二宮 徹 NHK青森放送局副局長（前 解説委員）
- ・ 平川 理恵 広島県教育委員会教育長
- ・ 藤迫 稔 大阪府箕面市教育委員会教育長
- ・ 堀田 龍也 東北大学大学院情報科学研究科教授、東京学芸大学大学院教育学研究科教授
- ・ 水野 達朗 大阪府大東市教育委員会教育長

- ・ 溝上 慎一 学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学学長・教授
- ・ 宮下 友美恵 学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園長
- ◎ 無藤 隆 白梅学園大学名誉教授
- ・ 村田 伊津子 岐阜市子ども・若者総合支援センター“エルぎふ”所長
- ・ 吉田 信解 埼玉県本庄市長
- ・ 渡邊 一利 公益財団法人笹川スポーツ財団理事長
- ・ 渡邊 英則 学校法人渡辺学園 認定こども園ゆうゆうのもり幼保園長、港北幼稚園長

## 【オブザーバー】

- ・ 内閣府子ども・子育て本部参事官付（認定こども園担当）
- ・ 厚生労働省子ども家庭局保育課
- ・ 全国国公立幼稚園・こども園長会
- ・ 全日本私立幼稚園連合会
- ・ 公益社団法人全国幼児教育研究協会
- ・ 全国連合小学校長会
- ・ 日本私立小学校連合会
- ・ 社会福祉法人日本保育協会
- ・ 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
- ・ 公益社団法人全国私立保育連盟
- ・ 特定非営利活動法人全国認定こども園協会
- ・ 一般社団法人全国認定こども園連絡協議会
- ・ 認定こども園連盟

※黒木 定藏 宮崎県児湯郡西米良村長（令和3年7月～令和4年6月）

# 学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

(参考資料) 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き及び参考資料(初版) ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1258019\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm))

- ・ 幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であり、**全ての子供に等しく機会を与えて育成**していくことが必要。
- ・ **幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期**であり、**小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要**。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- ・ 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、**5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮**しつつ、「**架け橋期**」の教育の充実に図り、**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。
- ・ 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、**子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働**することが必要。
- ・ 教育行政を所掌する文部科学省は、**こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら**、家庭や地域の状況にかかわらず、**全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保障**していくことが必要。

これらを踏まえ、以下の方策を推進

## 1. 架け橋期の教育の充実

幼児教育施設と小学校は、3要領・指針<sup>※</sup>及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要。<sup>※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</sup>

### ① 子供の発達段階を見通した架け橋期の教育の充実 **幼 小**

- ・ 幼児教育と小学校教育では、各教科等の区別の有無や内容・時間の設定など様々な違いを有することから、**幼保小が意識的に協働して「架け橋期」の教育を充実**
- ・ 幼児教育施設においては、**小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育み**、小学校においては、**幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施**。特に、小学校の入学当初においては、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期であり、幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施

### ② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立 **幼 小**

- ・ **幼保小が協働**して、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」等を手掛かりとしながら、**架け橋期のカリキュラム<sup>※</sup>を作成**。小学校1年生の修了時期を中心に**共に振り返って、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し、幼保小それぞれの教育を充実**  
<sup>※幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの</sup>
- ・ 幼保小の合同会議等を定期的 to開催するなど、**幼児教育施設と小学校の継続的な対話を確保**、コミュニティ・スクール等を活用し、**保護者や地域住民の参画を得る仕組みづくり**

## 2. 幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有

幼児教育施設と小学校が、保護者や地域住民等の参画を得ながら、架け橋期の教育の充実に図るためには、幼児教育の特性について、認識の共有を図ることが必要。

### ① 幼児教育の特性に関する認識の共有 **幼 小**

- ・ 幼児期の遊びを通じた学び<sup>※</sup>の特性に関する社会や小学校等との認識の共有が未だ十分ではないため、様々な研究や実践の成果に基づく知見を活用して幅広く伝え、**遊びを通じた学びの教育的意義や効果の共通認識を図る**  
<sup>※幼児期は、子供が遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいくとともに、遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、友達と様々なことを学んでいく</sup>

### ② ICTの活用による教育実践や子供の学びの見える化 **幼**

- ・ ICTを活用したドキュメンテーションやポートフォリオにより**日々の教育実践や子供の学びを「見える化」**し、先生の教育の意図等を併せて伝えることにより、幼児教育の特性や教育方針等について、**保護者や地域住民の理解を促進**
- ・ 「見える化」による保護者や地域住民との連携の**好事例等を収集・発信**し、幼児教育の特性に関する社会の認識を向上

### 3. 特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援

障害のある子供や外国籍等の子供など、特別な配慮を必要とする子供や家庭への適切な支援が必要。

#### ① 特別な配慮を必要とする子供と家庭のための幼保小の接続 **幼** **小**

- ・ 特別な配慮を必要とする子供の対応が増加しており、幼児教育施設・小学校と、母子保健、福祉、医療等の関係機関との連携強化により、切れ目ない支援を実施
- ・ 国や地方自治体において、障害のある子供や外国籍等の子供などの受入れに関する研修プログラムを開発、研修資料や教材を作成
- ・ 幼児教育施設は、一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら子供の実態に応じた適切な支援を実施、小学校は、引き継いで必要な支援を実施

#### ② 好事例の収集 **幼** **小**

- ・ 幼児教育施設や小学校における子供の多様性に配慮した教育の充実に関する好事例等を収集・蓄積して活用

### 4. 全ての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むための支援

核家族化や地域の関わりの希薄化に伴い、家庭や地域の教育力が低下し、幼児教育施設の役割が一層重要。

#### ① 幼児教育施設の教育機能と場の提供 **幼**

- ・ 0歳から5歳の未就園児も含め、様々な体験の機会が得られるよう、幼児教育施設が有する専門的な知見や場を地域に提供し、様々な子供の学びの場への参加を推進
- ・ 幼児教育施設において、保護者の幼児教育に対する理解を深めるとともに、親子登園や相談事業、一時預かり事業等の子育て支援を充実

#### ② 全ての子供のウェルビーイング<sup>※</sup>を保障するカリキュラムの実現 **幼** **小**

- ・ 全ての子供のウェルビーイングを高める観点から、教育課程の編成<sup>※※</sup>や指導計画の作成、実施や評価、改善等

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

※※保育所は「全体的な計画」、幼保連携型認定こども園は「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の作成

### 5. 教育の質を保障するために必要な体制等

設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上や幼保小の接続等の取組を一体的に推進する体制が必要。また、幼児教育施設における人材確保や勤務環境の改善等が必要。

#### ① 地方自治体における推進体制の構築 **幼** **小**

- ・ 地方自治体において、幼保小の担当部局の連携・協働や幼保の担当部局の一元化、幼児教育センターの設置・活用や幼児教育アドバイザーの配置等を推進

#### ② 架け橋期の教育の質保障のために必要な人材育成等 **幼** **小**

- ・ 幼保小に対して専門的な指導・助言等を行う架け橋期のコーディネーターや幼児教育アドバイザーを育成、幼保小接続や生活科を担当する指導主事の配置・指導力の向上
- ・ 幼児教育施設や小学校の管理職や先生の研修を充実
- ・ 架け橋期のカリキュラムや研修等を開発・実施する「幼保小の架け橋プログラム」を推進

#### ③ 幼児期の教育の質保障のために必要な人材確保・定着等 **幼**

- ・ 国において、処遇改善等の必要な施策を引き続き実施
- ・ 地方自治体において、総合的な人材確保策を推進
- ・ 幼児教育施設において、管理職等がマネジメント能力やリーダーシップを発揮するための研修を充実  
心理や福祉、障害等の専門的知見を有する者を積極的に活用  
働き方改革を推進するため、ICT環境の整備を推進
- ・ 事故等の発生・再発防止のための取組を徹底

### 6. 教育の質を保障するために必要な調査研究等

幼児教育や幼保小の接続の分野について、データやエビデンスに基づく政策形成が必要。

#### ① 幼保小接続期の教育に関する調査研究 **幼** **小**

- ・ 国において、架け橋期のカリキュラムに基づく評価方法や、諸外国における子供の多様性を尊重した幼保小の接続期の具体的支援や体制の構築について、調査研究を推進

#### ② 幼児期の教育に関する調査研究 **幼**

- ・ 国立教育政策研究所幼児教育研究センター、大学、地方自治体、幼児教育関係団体、民間研究機関等からなる国内外の研究ネットワークを構築
- ・ 質の高い幼児教育とは何かを明らかにするため、国のプロジェクトとして、大規模な長期縦断調査を実施
- ・ 日本独自の質評価指標の開発や園内研修等において活用しやすい質評価指標の開発を推進



# 幼保小の架け橋プログラムの実施について

- 幼保小の架け橋期の教育の充実を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施するため、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）と参考資料（初版）を作成
- 令和4年度から3か年程度を念頭に、『全国的な架け橋の充実』と『モデル地域における先進事例の実践』を並行して推進
- 「幼保小の架け橋プログラム」のねらいは次のとおり
  - ・幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
  - ・3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
  - ・架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及 など

## 地域における体制のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

### ○架け橋期のカリキュラム開発会議

#### 【構成員】

- ・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
  - ・教育委員会、子育て担当部局
  - ・教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
  - ・保護者や地域の関係者
  - ・架け橋期のコーディネーター（有識者）
  - ・幼保小の関係団体
  - ・有識者
- 等

#### 【取組内容】

- ・手引き（初版）、参考資料（初版）を活用しつつ、架け橋期のカリキュラムの開発
- ・カリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発
- ・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
- ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼稚園関係団体  
保育所関係団体  
認定こども園関係団体  
小学校関係団体  
※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

大学等  
※取組への助言、養成・研修への反映等

家庭・地域  
※子供の育ちの共有、各園・小学校の取組への協力

様々な立場から意見  
や事例（動画や画像  
を含む）を出し合っ  
て話し合う

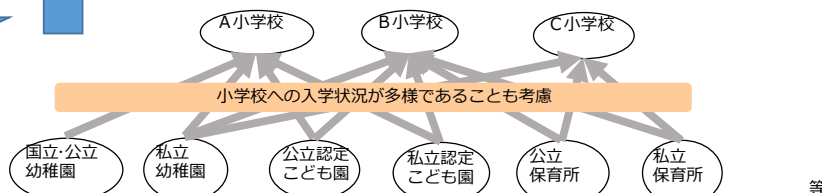


幼保小の架け橋プログラムの実施に  
向けての手引き（初版）

令和4年3月31日  
文 部 科 学 省

※開発会議、園・学校、自治体が本プログラムを進めていく上でのイメージについて、基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでの4つのフェーズから記載。自分たちが、今どのフェーズにいるのかを判断し、次のフェーズに向けた取り組みのイメージ例も記載。

架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施  
各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化  
持続的・発展的に実施する組織体制の構築



### 架け橋期の教育の質保障(国)

#### 【検証体制】

- ・幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者 等

#### 【検証等の内容】

- ①実態調査
- ②改善事項の整理  
取組推進

質  
保  
障

幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

全国的な取組の実施と併せて行う

幼保小の架け橋プログラム事業

令和5年度予算額 2.2億円

- ・幼保小の架け橋プログラムについて、モデル地域において具体的に開発し実践
- ・モデル地域の成果検証の実施

※「幼児教育の質保障に関する調査研究」  
に関する金額を除く予算額

令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における先進事例の実践を並行して集中的に推進。

## 幼児教育推進体制等を通じた全国的な取組

- ・ 幼児教育推進体制のネットワークや、中央協議会、都道府県協議会、小学校担当の指導主事会議等の機会を活用し、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）や参考資料（初版）等の趣旨・内容を的確に周知・普及。好事例を分析し、幼保小の関係者等に展開。
- ・ 各自治体における架け橋期のカリキュラム・教育方法の充実・改善を促進
- ・ 幼保小の連携体制や、幼児教育推進体制（幼児教育センター、幼児教育アドバイザー）の設置を促進
- ・ 幼保小の連携・接続に関する様々な自治体の取組を共有するプラットフォームづくり
- ・ 園・小学校や家庭・地域向けにも分かりやすいパンフレット（架け橋期の取組の意義・効果を含む）や動画の配信等の多様な発信



## モデル地域における実践

- ・ 文部科学省委託事業「幼保小の架け橋プログラム事業」を活用し、架け橋期のカリキュラムの開発、実践、評価・改善 等

北海道、岐阜県、滋賀県、広島県、山口県、高知県、秋田県大館市、宮城県白石市、福島県西会津町、埼玉県川越市、神奈川県横浜市、静岡県袋井市、静岡県掛川市、京都府京都市、大阪府枚方市、大阪府箕面市、島根県津和野町、香川県高松市、大分県竹田市

小学校での学習や生活を見通すことが必要である。これは、小学校教育の前倒しではなく、将来の学びにつながる幼児の体験、この体験を幼児期にふさわしい形で実現させていくこと（最も遊びが深まるのは、幼児の主体性と先生の意図が合致したとき。つまり、活動の主体は幼児であり、先生は活動が生まれやすく、展開しやすいように意図をもって環境を構成していく）。

### 【小学校教育における課題等の例】

- ・ 語彙量を増やすことなど基礎的な知識・技能の定着
- ・ 身近な出来事から気付きを得て考えること
- ・ 活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を育成
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることや事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること
- ・ 観察・実験の結果などを整理した上で、考察し、説明すること
- ・ 運動する子供とそうでない子供の二極化傾向、子供の体力が依然として低い傾向
- ・ 情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力

## 【幼児らしい生活の中で体験を通じた学びの例】

幼児が諸感覚を働かせ体験を通して学ぶことは、小学校以上の学習において、学習意欲や実感を伴った理解につながるほか、つまりいても理解できたときの達成感を思い出して繰り返し学んだり、学んだことを実生活の中で活用したりすることにつながる。



### 言葉を豊かにする遊びや園生活の工夫

○多様な体験で触れる様々な物、行動、感情を言葉にする  
(例)

- ・言葉を言い換える（一つ→一個 等）
- ・雨の降り方（しとしと、ザーザー）等、言葉の表す状況の違いや使用場面を意識する
- ・文化や季節の行事などを楽しみ、感情を言葉にする
- ・絵本や物語を通して、言葉に親しむ
- ・幼児が興味を持つような、言葉の響きやリズムの面白さ、身体を使った表現との組合せなどを生かした工夫をしつつ、日本語の伝統にある名文等の豊かな文章や表現の響きに親しみ、楽しい言葉や美しい言葉と出会えるようにする

### 自然への興味や関わる意欲につながる遊びや園生活の工夫

○幼児の周囲の自然の事物・現象に目を向け、遊びや生活に取り入れる  
(例)

- ・自然の事物・現象に関する実験の実演（この体験をきっかけに、幼児が遊びの中で取り入れたりできるような工夫もする。）
- ・植物の栽培や昆虫の飼育を通じた観察
- ・お泊り保育等で星空を見る時に、天体の不思議に関わる話を聞く

### 体を動かすことへの興味や意欲につながる遊びや園生活の工夫

○体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具などを操作する動きなどを遊びに取り入れる  
(例)

- ・挑戦してみたいと思えるように組み合わせた動きが含まれる遊びを意識
- ・遊具を用いた複雑な動きが含まれる遊びや、様々なルールでの鬼遊び

### 情報を比較したり取り入れたりした遊びや園生活の工夫

○園や家庭等で得た情報を遊びに活用したり、興味や関心等に応じて調べたりする  
(例)

- ・物語づくりに使う絵や写真を複数用意し、どちらがよいか相談するなど、情報の比較ができるような場面設定
- ・遊園地ごっここの時に、遊園地にある乗り物を家族に聞いたり、パンフレットを見たり調べたりなど、情報を収集するような状況の設定

### 数や量等への興味や関心につながる遊びや園生活の工夫

○数や量と関わる活動の機会を捉え、幼児の意識を高める  
(例)

- ・桜の花びらやどんぐりを使って、拾った桜の花びらやどんぐりを数え上げたり、幼児同士で同じ数ずつ分け合ったり、遊びの中での数との関わり方の工夫、幼児が意識できる先生の声掛け（全部でいくつかな 等）
- ・砂場での川やダム作りでは、川やダムに入って深さを比べたり、バケツで水を運ぶ回数で水量を比べたりなど、遊びの中での量との関わり方の工夫、幼児が意識できる環境の構成（バケツの大きさを複数準備する等）



幼児期の体験や、園での遊びや生活を踏まえ、指導を工夫する。これまでのスタートカリキュラムの知見も活かしつつ、幼児期の体験の生かし方なども変えていく。

## 【スタートカリキュラムの基本的な考え方】

### ○一人一人の児童の成長の姿からデザインしよう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえるなどして、幼児の発達や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインすることが重要である。

### ○児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫しよう

入学当初の児童の発達の特性やこの時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりするような工夫が必要である。また、児童の意欲の高まりを大切に、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定することなども考えられる。

### ○生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要である。このような指導により、児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進めていくことが可能となる。

### ○安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整えよう

児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えることが重要である。児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を見直す必要がある。

#### リズムで楽しく遊ぼう



「あひるのあくびはあ・い・う・え・お」  
音読にも動きを付けて、体全体で伸び伸び表現します。

#### アサガオを育てよう



友達と力合わせることで、気づきが生まれます。

【週案を作成する際に意識するポイント例】

○一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築けるようにする

- ・朝の会から、1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する活動などを1週間の時間割に位置付ける。
- ・一定の期間は同じ学習内容を繰り返す連続性と、少しずつ内容が高まっていく発展性を意識する。

遊び等の園で親しんできたことを取り入れた活動例

- ✓登校して支度を自分のペースで始めたり、友達との関わりを広げたり、自分のよさを一層発揮したりすることができるようにする。  
〈例〉折り紙、お絵かき、積み木、工作、カルタ、絵本など
- ✓リズムにのって体を動かすことなどを1日のスタートに取り入れることで、気持ちが解放され、その後の活動にも意欲的に取り組むことができる。

○合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習活動とする

- ・子供の思いや願いの実現に向けた主体的な学習につながるよう時間割を計画する。
- ・生活科を中心に、つながりのある他教科等のねらいを考えながら合科的・関連的な指導を行う。
- ・思いや願いの実現に向けた主体的な学習活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように、2時間続きなどの学習活動を位置付ける。

取組例

- ✓子供のつぶやきを大切にし、子供の意識の流れに沿った学習活動
- ✓体験を通して、見付けたり、遊んだり、不思議だと感じたり、やってみたいと思ったりしたことを、各教科等につなげる。
- ✓生活上必要な技能や習慣は、思いや願いを実現する過程で身に付いていくもの。

○教科等を中心とした学習活動

- ・入学当初の子供の学習に対する期待感を生かし自覚的な学びにつなぐために、教科等の学びの時間を時間割に位置付ける。
- ・子供の学習意欲が続くように、他教科等の指導の際に生活科との関連を意識する。
- ・入学当初の子供の発達の特性に配慮し、10分から15分の短い時間を利用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりする。

幼児期の体験を踏まえた活動は、児童の安心も、学びの深まりも！

## 架け橋期のカリキュラム

3歳

5歳

小1

小2

先生の関わり

幼児と先生との関係を中心としながら他の幼児との関係が広がっていく

関わりの多様化

等

- ・入園当初、幼児の安心できる拠り所
  - ・幼児の気持ちの代弁、共感
  - ・遊びのモデル（模倣）
  - ・幼児の疑問を受け止める
- ↓  
(声掛けの例)
- ・楽しいね
  - ・これがやりたいんだね。先生もやりたくなっちゃった

等

自己の世界が広がり、物との関わり方、状況判断、他の幼児との関係ができてくる中での、先生の役割の例

- ・幼児の活動の理解者
- ・幼児との共同作業者
- ・憧れを形成するモデル
- ・遊びや課題解決の援助

- ・疑問やヒントなど、対話を通して幼児の考えを促す
  - ・意欲を引き上げつつ、任せる
  - ・善悪や他者との関係のモデル
  - ・先生は、幼児同士の仲立ち
- ↓  
(声掛けの例)
- ・なんでだろうね？
  - ・どうしたらできるかな？

等

- ・入学当初は、安心を生み、成長・自立を支える（子供と一緒に活動を楽しむ、子供の目線で話を聞く、一人一人が自己発揮できる環境の多様性など）
- ・気付きを基に考えることを促す（見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなど）
- ・気付きの質の高まりを促す（伝える、交流する、振り返るなど）

等

子供の発達等に応じて先生の関わり方に変化はあるが、その基本的な考え方は同じである。教育の内容や方法の違いのみに着目するのではなく、そうした共通点を生かしていくことも必要である。

先生と子供の相互作用、子供同士の相互作用を生み出し、

- ・子供同士の考えをつなぎ、子供とともに創造する
- ・多様な子供一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくり

といった視点は共通していることを踏まえ、各施設段階での先生の関わりや役割について捉え、幼保小の先生方が一緒に考えていくことが大切である。

## 【幼児教育施設（園）】

幼児の思いから始まった遊びの中で得ている体験を推測し、共感や問い掛けなど、関わり方を工夫し、幼児の遊びが深まり発展するように配慮しており、以下の役割などを果たしている。

### ● 幼児にとっての教材である環境を構成する役割

### ● 環境の下で幼児と適切な関りをする役割

#### ・ 幼児が行っている活動の理解者

集団における幼児の活動の意味を捉える。

#### ・ 幼児の共同作者、幼児と共鳴する者

幼児は自分の思いを全身で表現する。幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立ってものを見つめたりすることによって、幼児の活動が活性化し、先生と一緒にできる楽しさから更に活動への集中を生んでいく。

#### ・ 憧れを形成するモデル

「先生のようにやってみたい」という幼児の思いが、事物との新たな出会いを生み出したり、工夫して遊びに取り組んだりすることを促す。幼児は、先生の日々の言葉や行動する姿をモデルとして多くのことを学んでいく。

#### ・ 遊びや課題解決の援助者

一人一人の発達に応じた援助のタイミングや援助の仕方を考え、自立心などを養うことが大切である。先生がすぐに援助することによって、幼児が自ら工夫してやろうとしたり、友達と助け合ったりする機会がなくなることもある。先生が全てを手伝ってしまうのか、ヒントを与えるだけでよいのか、また、いつまで援助するのかなどを考え、援助を行う。

## 【小学校】

● 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境として、先生は、児童と一緒に活動を楽しんだり、児童の様子を温かく見守ったり、児童の目線で話を聞いたりする。

● 幼児の自発的な活動である遊びを通した学びを旨とする幼児教育における先生の幼児への関わり方について、小学校でも適宜とりいれながら児童と関わる。

● 次の点に留意して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。

① 各教科等の資質・能力を育成することを目指した授業を行うこと

② 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、授業を行うこと

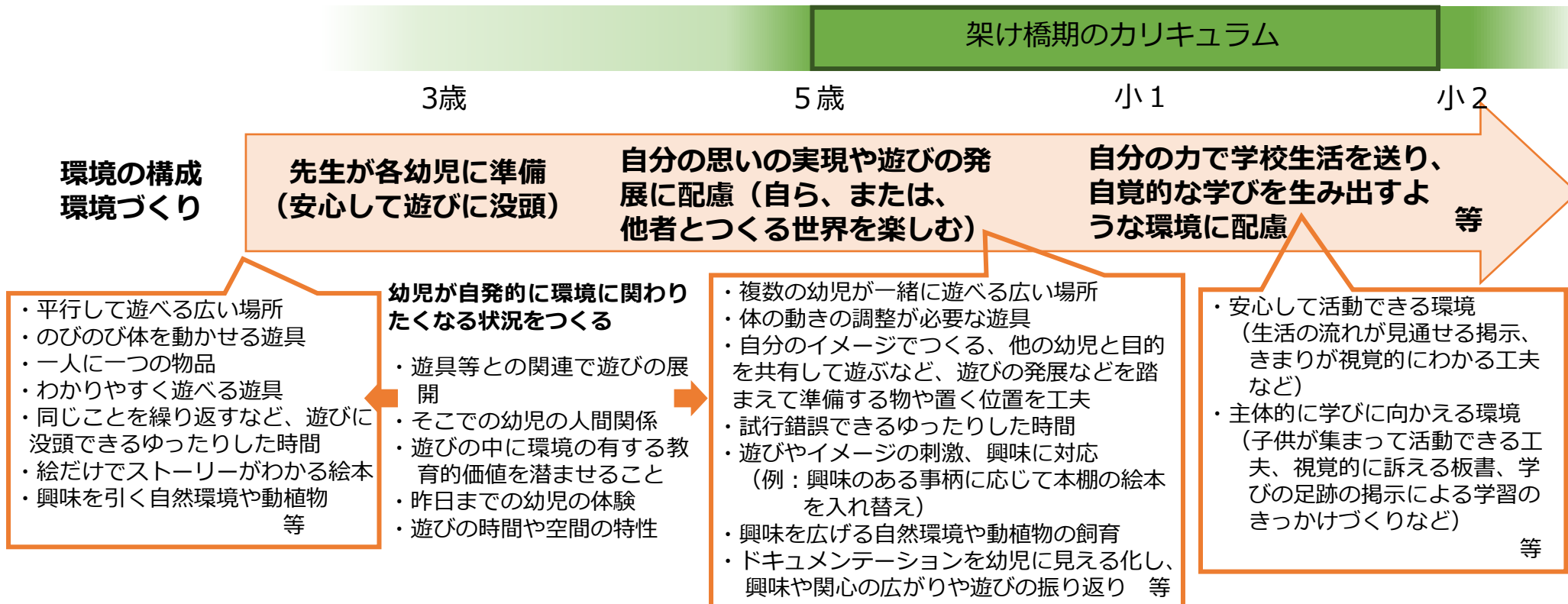
③ 各教科等の特質に応じた見方・考え方を習得・活用・探究という学びの過程で働かせることを通じて、より質の高い学びにつなげること

④ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図るようにすること



# 共通の視点の例「④指導上の配慮事項 環境の構成・環境づくり」のイメージ例 ～教育的価値を有する、教材としての環境～

手引き  
参考例



○幼児期の教育が遊びの中での学び、小学校教育が各教科等の授業を通した学習という違いがあるものの、両者共に「人との関わり」と「ものとの関わり」という直接的・具体的な対象との関わりの中で行われることは同じである。(例えば、幼児も児童も、人やものとの関わりを通して、対象に内包される法則性や、生命や自然に対する畏敬の念といった抽象的で高度な概念と関わり、それらを獲得していく 等)

○環境の構成・環境づくりについて、子供にとっての教育的価値の視点からその共通性の理解を深めるとともに、子供が学びを深めていくことができる環境の在り方について協議を深め、充実を図っていくことが大切である。

○なお、園と小学校では、施設や室内環境、時間の区切り方などが異なっていることに関する理解も必要である。幼児期の教育は、「環境を通して行う教育」を基本としており、先生に支えられながら幼児が自分の力で生活をつくっていくことができるように環境を構成している。小学校教育においても、児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように、児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で学習環境を見直すことが大切である。

# 共通の視点の例「④指導上の配慮事項 環境の構成・環境づくり」のイメージ例 ～教育的価値を有する、教材としての環境～

手引き  
参考例

## 【幼児教育施設（園）】

幼児にとっての学びである遊びは、環境との関わりが深まることで充実する。そのため、幼児が関わる環境（人、もの、出来事、時間、空間等）の全てが幼児にとっての教材となりえる。幼児の主体的な遊びを大切にしつつ、その幼児にどのような成長を願うのかといった先生の意図を環境に込める。例えば、色水遊びで、「幼児が色の美しさや微妙な色の違いに気付けるようにしたい」と考えるからこそ、色がよく見える透明な容器を準備する。こうした教材（環境）には、先生が準備するもの、先生と幼児が一緒につくるものと様々である。

## 【小学校】

園における環境（教材）の工夫などについて、小学校でも適宜とりいれながら、架け橋期の指導の充実などを図っていく。小学校では、授業等で扱う学習教材だけではなく、休憩時間等に子供が関わる環境（掲示物、アサガオなどの教材の置き場所）なども子供の学びに影響する環境（教材）であることを再確認し、その教材観を広げていくことも大切である。

### 幼保小を通じた工夫の例

#### ものとの関わり

幼児教育施設（園）



ダンゴムシに触れ、生き物や生き物が住んでいる環境などに興味や関心をもつ。



いろいろな形の石に触れ、大きさ順に並べたりする。

小学校



教室に掲示し、児童が活動や秋の美しさを振り返ったり、公園で秋らしさを探したりする。

#### 人との関わり

幼児教育施設（園）



友達と一緒に楽しみながら絵をかきながら、思いを共有したりする。

小学校



本時の目標を達成しようと、グループで協力し、試行錯誤しながらおもちゃを作る。



音楽を楽しむ中で、友達と一緒に、役割分担したり協力したりする。

# 幼保小の架け橋プログラムに関する動画

- 文部科学省では、幼保小の架け橋プログラムの推進に当たって、幼保小の関係者において「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」等に関する理解を深めていただくための動画を公開。
- 加えて、中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における幼保小の架け橋プログラムの議論に携わっていただいた委員の方々等より、幼保小の架け橋プログラムへの思いや期待すること、進めるに当たって配慮すること等についてお話しいただいた動画を公開。

☆文部科学省HP：幼保小の架け橋プログラム（右のQRコードからもアクセスいただけます。）  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1258019\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm)



## 公開中の動画

※令和4年11月末時点で公開しているもの。説明者の肩書きは動画公開時のもの。

※いずれも文部科学省YouTubeチャンネルにて公開。

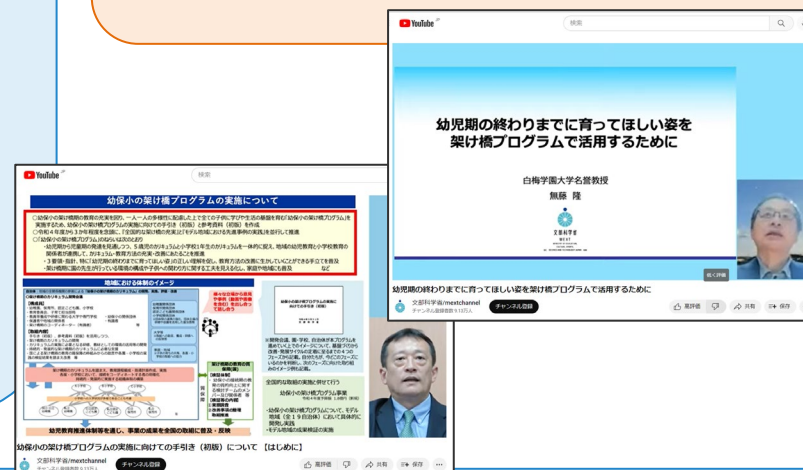
### 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）等に関する動画

- 【はじめに】：幼保小の架け橋プログラムのねらいや概要等について。  
（説明者：安彦 広斉 大臣官房審議官（初等中等教育担当））
- 【その1】：手引きの全体像について。  
（説明者：大杉 住子 初等中等教育局幼児教育課長）
- 【その2】：手引きの「3.架け橋期のカリキュラム開発会議における取組」について。  
（説明者：澤田 佳代 同局幼児教育課子育て支援指導官）
- 【その3】：手引きの「4.園・小学校における架け橋期のカリキュラムに関する取組」「5.園・小学校における実施に必要な体制づくり」について。  
（説明者：横山 真貴子 同局幼児教育課幼児教育調査官）
- 【その4】：手引きの「6.自治体における支援体制づくり」「7.幼児教育推進体制を通じた幼保小の架け橋プログラムの普及」について。  
（説明者：藤岡 謙一 同局幼児教育課幼児教育企画官）
- 【その5】：手引きの「架け橋期のカリキュラムの共通の視点の例」等について。  
（説明者：小久保 篤子 同局幼児教育課教科調査官  
齋藤 博伸 同局教育課程課教科調査官）

### 幼保小の架け橋プログラムに期待すること（動画）

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を架け橋プログラムで活用するために  
（説明者：無藤 隆 白梅学園大学名誉教授）

※今後も、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」委員等による動画を随時拡充予定。





## 背景・課題

幼保小の接続期の教育の質的向上に向け、全ての子供たちの多様性にも配慮した上で**学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」**について、全国的な取組の充実と併せて、実施モデル地域において具体的に開発し実践を行い、その成果の検証等を実施する調査研究を行う。また、幼児教育の研究拠点の充実強化に資するよう、**研究機関による幼児教育の質保障に係る調査研究**を実施

## 事業内容

### ①モデル地域における検証等を通じた「幼保小の架け橋プログラム」の開発・改善

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、一人一人の多様性に配慮した上で全ての幼児に学びや生活の基盤を育む『**幼保小の架け橋プログラム**』の開発・実践を進める。

#### モデル地域

※重点的に取り組む幼保小を指定

- ・中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論の成果を踏まえ、接続期のカリキュラムの開発及び取組の評価
- ・接続期のカリキュラムの実施に必要な教材や研修等を開発・実施
- ・園や小学校におけるカリキュラム、指導計画や保育の計画の作成・実施

実態調査等

#### モデル地域の成果検証

※研究機関による客観的な成果検証

接続期のカリキュラム等に関する改善事項を整理し、全国展開に向けた提言を行う

（※）成果普及の在り方に関する調査研究を併せて行う。

カリキュラム  
の  
接続期

幼児教育の質  
に関するデータ

### ②幼児教育の質保障に関する調査研究

教育の質に関するデータに基づき、幼児教育の質の保障を図る必要がある。そのため、**大学等の研究機関のネットワークを強化し、次のような調査研究を一体的に行う。**

- ・幼児期の環境や体験、学びが、その後の非認知能力や認知能力等に与える影響に関する**大規模実態調査**
- ・海外での研究動向も踏まえた**質保障の在り方**に関する調査研究

委託先

- ① 都道府県、市町村
- ② 大学、研究機関等

委託  
対象経費

調査研究に必要な経費  
（人件費、委員旅費、謝金等）

箇所数  
単価、期間

- ① 都道府県・市町村 700万円【継続のみ】  
（※）については、研究機関等1,700万円（1団体）
- ② 6,700万円（1団体）



# 幼児教育推進体制を活用した 地域の幼児教育の質向上強化事業

令和5年度予算額（案）  
（前年度予算額）

3.0億円  
2.7億円

文部科学省

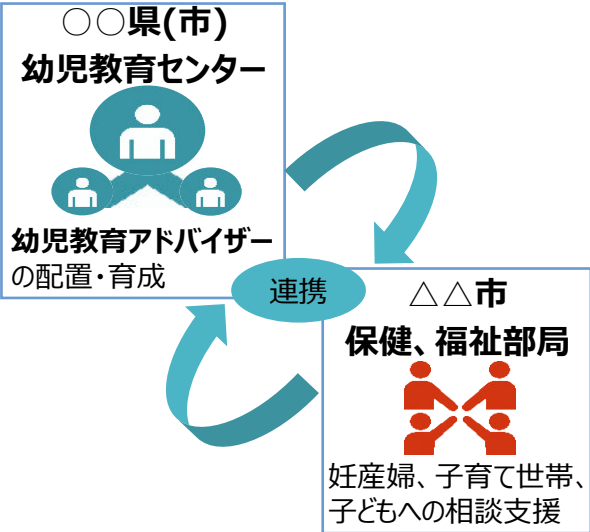
## 背景・課題

- 複数の施設類型が存在し、私立が多い幼児教育の現場において、**公私・施設類型問わず保育者の専門性の向上等の取組を一体的に推進するためには、幼稚園教育要領等の着実な実施、小学校教育への円滑な接続、特別な配慮を必要とする幼児への対応など教育内容面での質向上を担う地方公共団体の体制の充実が必要。**
- また、幼児教育施設の教職員が幼児教育の質向上にしっかり向き合えるよう、地域の幼児教育に関する課題に対して的確に対応した保健・福祉等の専門職をはじめとした人的体制の充実を図ることが必要。

## 事業内容

地域全体の幼児教育の質の向上を図るため、**幼児教育センターの設置やアドバイザーの配置、外部専門職や自治体の保健、福祉部局との連携等により、地域の課題に的確に対応する自治体の幼児教育推進体制の充実・活用への支援を強化**

- 体制の充実**
  - ・幼児教育アドバイザー（幼保小接続アドバイザー含む）の配置、質向上のための取組、新規アドバイザーの育成
  - ・地域の幼児教育に関する課題への的確な対応のための、**外部専門職や自治体の保健、福祉部局との効果的な連携**
- 体制の活用**
  - ・保健、福祉等の専門職を含む研修・巡回訪問の充実（**継続地域における質向上のための研修<新規>**）、域内の幼保小接続の推進、公開保育等の実施支援、内定者等学生支援、人材育成方針の更新・活用 等
- 域内全体への波及**
  - ・都道府県・市町村の連携を含めた関係者間の情報共有等、域内全体における幼児教育の質向上を図るための仕組み作り



## 新規体制整備促進策

・幼児教育推進体制**未実施地域の整備促進策に関する実証研究<委託事業>**

補助要件	①幼児教育センターの設置 ②担当部局一元化（P T等での対応可） ③小学校指導担当課との連携体制確保		
補助対象	都道府県、市町村		
単価・個所数・補助率	(補助) 7～9百万円程度（1／2）×67団体 (委託) 130万円程度×4団体		
対象経費		(補助) ・幼児教育アドバイザー配置に必要な経費（人件費等） ・専門職との連携に必要な経費（謝金等） ・研修・巡回訪問等に必要な経費（謝金、旅費等） (委託) ・検討会議運営経費（会議費等） ・ <b>先進地視察に係る経費（旅費）&lt;新規&gt;</b> ・幼児教育アドバイザー試行配置経費（謝金等）	

# 幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業

補助事業			
1	北海道	24	八戸市
2	岩手県	25	気仙沼市
3	秋田県	26	須賀川市
4	栃木県	27	鹿嶋市
5	新潟県	28	さいたま市
6	富山県	29	草加市
7	山梨県	30	八王子市
8	長野県	31	聖籠町
9	静岡県	32	袋井市
10	三重県	33	牧之原市
11	京都府	34	富士市
12	奈良県	35	函南町
13	鳥取県	36	東近江市
14	島根県	37	近江八幡市
15	岡山県	38	舞鶴市
16	広島県	39	大阪市
17	山口県	40	堺市
18	徳島県	41	八尾市
19	高知県	42	箕面市
20	佐賀県	43	伊丹市
21	熊本県	44	西脇市
22	大分県	45	奈良市
23	沖縄県	46	玉野市

## 委託事業

56	長崎県
57	秦野市

## 幼児教育推進体制の取組



幼児教育アドバイザーの  
配置・育成

保健、福祉等の  
専門職との連携

- ・幼児教育センターの設置
- ・公私施設類型問わない幼児教育支援体制
- ・小学校教育との連携体制

小学校教育との円滑な接続に向けて、幼児教育の質向上を担う地方公共団体の体制充実

